

清瀬市の

わかりやすい決算書

～清瀬市のまちづくり報告書～



令和6年度決算

目 次

◇ 決算とは？	1
◇ 歳入の状況	2
◇ 歳出の状況	3
◇ 歳出【目的別】	4
◇ 歳出【性質別】	5
◇ 令和6年度の主要事業	6
◇ 決算の特徴	11
◇ 積立金現在高の状況	12
◇ 財政指標	13
◇ 借金と将来負担	15
◇ 人件費削減の取組	18

表紙の写真

西武池袋線清瀬駅は令和6年6月11日に、開業100周年を迎えました。

清瀬駅の開業100周年を記念して誕生した「清瀬駅開業100周年記念トレイン」の写真です。

決算とは？

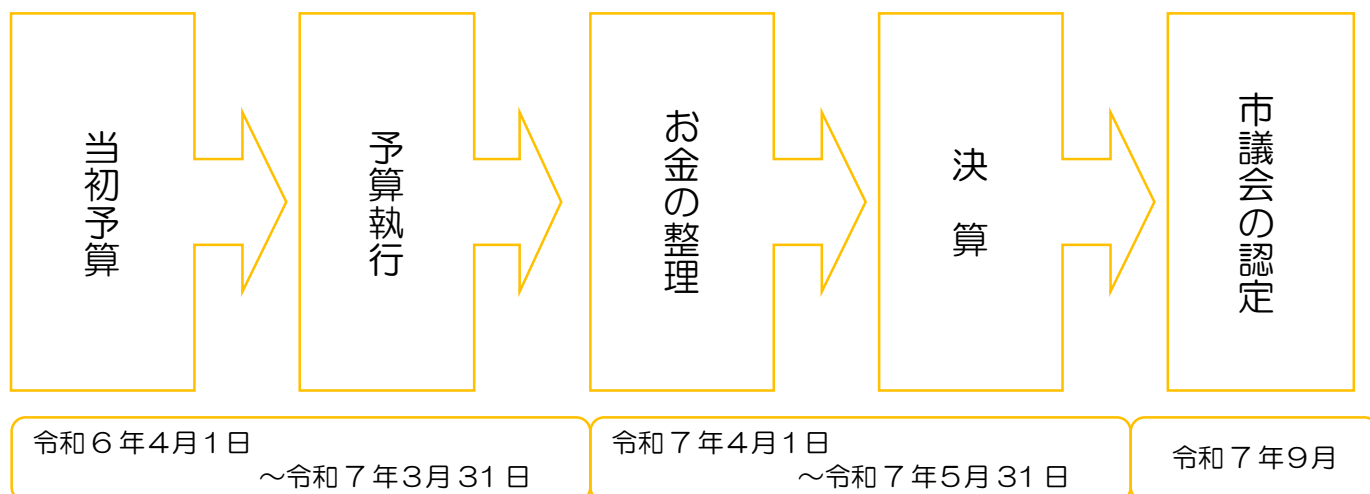


そもそも決算とは何でしょうか？



新しい年度が始まる前に、1年間（4月から翌年3月まで）にどのくらいの収入があるか、その収入をもとにして、どのような行政サービスを行うのかを計画し、その支出を見積ったものが予算です。それに対して決算とは、1年間にどれだけの収入があって、その収入をどんな使い道でどれだけ支出したのかを示したものです。また、市役所では一般企業や家庭で言う「収入」、「支出」のことをそれぞれ「歳入」、「歳出」と言います。

◆決算までの流れ（令和6年度決算認定までの流れ）



清瀬市の決算は黒字？赤字？



会社の決算においては黒字か赤字かで業績を判断していますが、市役所はどのようなのでしょうか？



市役所において黒字または赤字は、「**実質収支**」というものから判断します。

「実質収支」＝歳入総額－歳出総額－次の年に使うことが決められている金額

実質収支がプラスなら黒字、マイナスなら赤字となります。

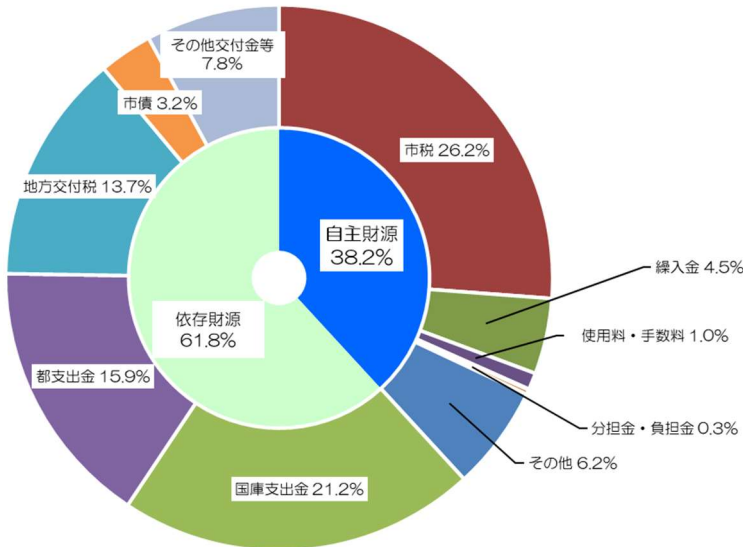
清瀬市の令和6年度決算においては、歳入は385億514万円に対して、歳出は370億9,282万円でした。差引14億1,232万円の余ったお金から、次の年（令和7年度）に使うことが決められている1億3,474万円を差し引いた12億7,757万円が実質収支となります。実質収支がプラスであることから、清瀬市の令和6年度決算は12億7,757万円の黒字ということになります。

歳入の状況



清瀬市が毎年使うお金はどのように
賄っているのでしょうか？

【歳入の構成比】



市役所の歳入は市税や使用料などの市が自主的に徴収できるお金である「**自主財源**」と国や都から交付されるお金や金融機関等からの借入れをする市債などの「**依存財源**」に分類することができます。清瀬市は自主財源よりも依存財源の方が多い市です。特に、市税が歳入額に占める割合は26.2%で多摩26市平均の38.7%を下回っており、市税収入が少ない状況です。自主財源の比率が高ければ、自由に使えるお金が多く、財政運営上望ましいとされています。自主財源の強化が清瀬市の大きな課題です。

◆一般会計歳入決算

項目	説明	金額	前年度比 (増減額)
自主財源	市が自主的に決定し、徴収できる財源	147億176万円	▲9億3,012万円
市税	市民の皆さんから納めていただく税金	100億8,852万円	▲2,793万円
個人市民税	均等割と所得割から構成	47億1,442万円	▲1億1,500万円
法人市民税	均等割と法人税割から構成	3億260万円	3,221万円
固定資産税	土地、家屋、償却資産に課される税金	38億1,679万円	5,303万円
軽自動車税	軽自動車の所有者が納める税金	9,352万円	440万円
市たばこ税	市内のたばこ販売小売店が納める税金	3億9,112万円	▲1,419万円
都市計画税	都市計画事業等に用いられる目的税	7億7,007万円	1,163万円
分担金・負担金	事業にかかる経費の一部を受益の程度に応じて利用者にご負担いただくお金	1億847万円	▲1,290万円
使用料・手数料	市営住宅使用料やごみ処理手数料など	3億8,063万円	796万円
繰入金	市の基金(貯金)からの取崩しなど	17億2,779万円	1億3,553万円
財産収入	市有の土地などの売却収入	1,994万円	▲3億2,595万円
その他	寄附金や前年度からの繰越金など	23億7,641万円	▲7億683万円
依存財源	国や都から交付される財源	238億337万円	12億1,742万円
国・都支出金	市の行政サービスを行うために、国や都から交付されるお金	142億7,430万円	8,870万円
地方交付税	国から財政力不足の自治体へ交付されるお金	52億6,239万円	4億7,062万円
市債	国や金融機関等からの借入金	12億1,900万円	9,300万円
その他交付金等	国や都が集めた税金を各自治体へ再配分する譲与税や地方消費税交付金など	30億4,769万円	5億6,510万円
合計		385億514万円	2億8,730万円

歳出の状況



清瀬市は令和6年度に何のために、どのようにお金を使ったのでしょうか？

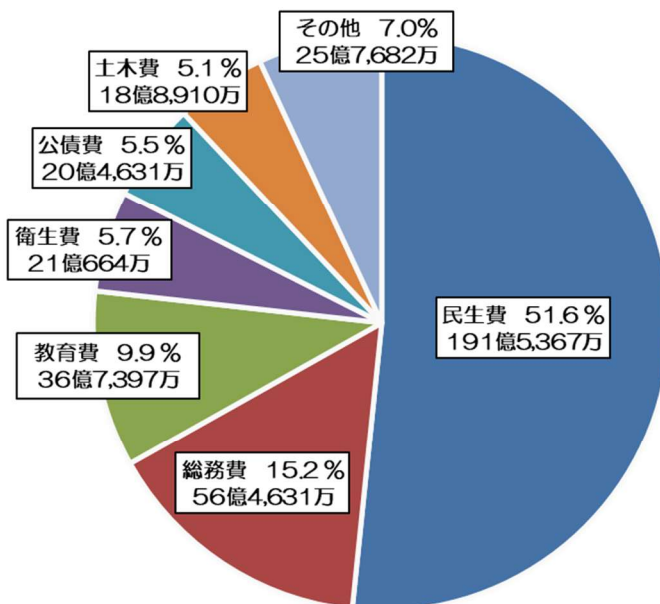


清瀬市の令和6年度のお金の使い道を知るためには、2種類の確認方法があります。

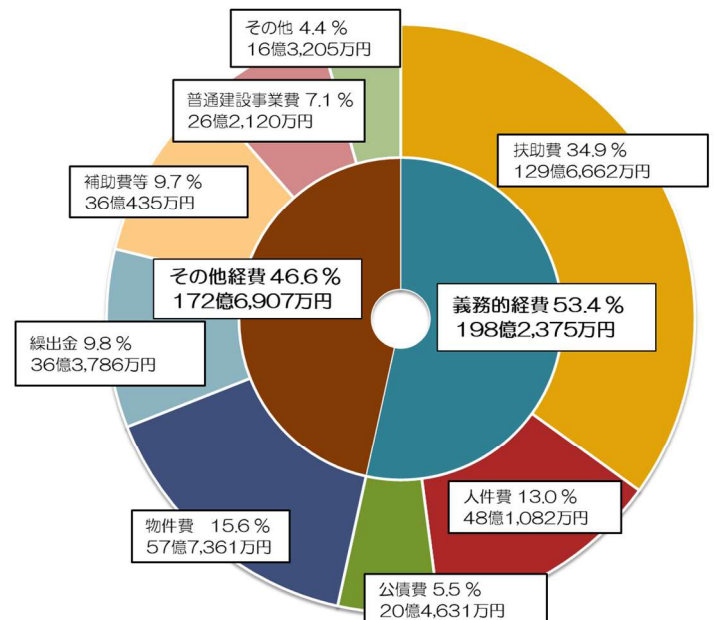
- **目的別経費**：何のためにお金を使ったか。
例えば・・・子育て支援のために【民生費】、けやき通りの整備のため【土木費】
- **性質別経費**：どういう用途にお金を使ったか。
例えば・・・児童手当の給付に【扶助費】、けやき通りの枝の剪定作業に【物件費】

清瀬市の歳出では、目的別経費における民生費の割合が、全体の51.6%と決算額の半分以上を占めていることが大きな特徴となっています。さらに性質別経費では、毎年必ず支出しなければならない義務的経費（人件費、扶助費、公債費）が、全体の53.4%と多摩26市の中で2番目に高い割合となっており、他市と比較して財政構造の柔軟性が低い状態であると言えます。

【目的別歳出の構成比】



【性質別歳出の構成比】



4ページと5ページで目的別経費、性質別経費がどのようなものか、またそれぞれいくら使ったのかみてみましょう。

歳出【目的別】

◆一般会計決算（目的別経費）

項目	説明	金額	前年度比 (増減額)
議会費	議員の報酬や議会運営などにかかる経費	2億9,094万円	▲417万円
総務費	庁舎などの管理、市税の賦課徴収、戸籍事務など市役所の一般的な仕事にかかる経費 ★南部児童館等複合施設及び中央公園の整備工事を行いました。	56億4,631万円	11億953万円
民生費	障害者福祉や生活保護などの社会保障、また児童手当などにかかる経費 ★乳幼児及び義務教育就学児童を養育する世帯等に対する物価高騰対応重点支援給付金の支給を行いました。	191億5,367万円	6億4,169万円
衛生費	予防接種やがん検診などの健康推進、母子保健、また公害防止やごみ収集などにかかる経費 ★男子HPVワクチン接種費用助成を開始しました。	21億664万円	▲5,558万円
労働費	労働者環境の向上や就労支援などにかかる経費	2,007万円	1,408万円
農林業費	農林業の振興にかかる経費 ★「清瀬ひまわりフェスティバル」の熱中症対策を拡充しました。	8,531万円	▲2,861万円
商工費	商工業の振興にかかる経費 ★清瀬市の産業振興及び地域活性化を図ることを目的に設立した清瀬市観光協会への補助金を開始しました。	1億1,553万円	▲1億2,082万円
土木費	道路や公園、市営住宅の管理などにかかる経費 ★市民の安全で快適な生活を確保するため、けやき通りなどの道路舗装打換を行いました。	18億8,910万円	▲2億8,144万円
消防費	火災、地震等の災害から市民を守るための経費 ★第5分団の消防ポンプ車の更新を行いました。	10億8,383万円	5,297万円
教育費	小中学校の運営費、図書館や博物館などの生涯学習、文化振興などにかかる経費 ★令和6年10月から給食費の無償化を実施しました。	36億7,397万円	2億2,987万円
公債費	事業を行うために国や金融機関等から借りた市債（借金）の返済金	20億4,631万円	7,912万円
諸支出金	他の項目に含まれない経費をまとめたもの	9億8,114万円	▲6億5,292万円
予備費	緊急に支出を必要とする場合に備えて用意しているお金	0万円	0万円
合計		370億9,282万円	9億8,372万円

★マークは令和6年度に行った主な事業や近年の特徴を説明しています。

歳出【性質別】

◆一般会計決算（性質別経費）

	項目	説明	金額	前年度比 (増減額)
義務的経費	人件費	市職員の給料や市議会議員の報酬・社会保険料などにかかる経費 ★職員数・人件費の推移については19ページで詳しく説明しています。	48億1,082万円	2億1,592万円
	うち職員給与等	人件費のうち市職員にかかる経費	26億2,846万円	1,945万円
	扶助費	福祉などの生活支援及び児童手当などの給付にかかる経費 ★物価高騰対策として、子育て世帯等に対し、給付金を支給しました。	129億6,662万円	6億4,323万円
	公債費	事業を行うために国や金融機関等から借りた市債（借金）の返済金	20億4,631万円	7,912万円
	小計	毎年必ず支出しなければならない経費	198億2,375万円	9億3,827万円
その他経費	物件費	物品の購入、光熱水費、委託料などにかかる消費的経費 ★小学校給食やごみ収集の委託を行いました。	57億7,361万円	8億1,905万円
	維持補修費	施設の維持管理にかかる経費 ★市内各所の道路補修などを行いました。	6,288万円	1,104万円
	補助費等	各種団体への補助金や一部事務組合の負担金などにかかる経費 ★義務教育就学児医療費・高校生等医療費助成の所得制限撤廃などを行いました。	36億435万円	▲8,324万円
	普通建設事業費	道路や公園、小中学校校舎など、社会資本の形成にかかる経費 ★小学校大規模改修事業や市内各所の道路整備などを行いました。	26億2,120万円	5,575万円
	災害復旧費	大雨、暴風、地震などの災害により被災した施設等を復旧するための経費	0万円	0万円
	積立金	各種基金（貯金）への積立金 ★お金があまり余らず、特に財政調整基金への積み立てが前年度の半分しかできませんでした。12ページで詳しく説明しています。	15億3,367万円	▲7億2,100万円
	貸付金	奨学資金の貸付など、市が一時的に貸し出す経費	2,452万円	1,335万円
	投資及び出資金	下水道事業会計へ出資するための経費	1,098万円	▲2万円
	繰出金	特別会計の収入を補うための経費	36億3,786万円	▲4,946億万円
		★医療費の増加や介護サービス利用の増加により、国民健康保険事業特別会計、介護保険特別会計などへ一般会計からお金を補填しています。		
合 計			370億9,282万円	9億8,372万円


★マークは令和6年度に行った主な事業や近年の特徴を説明しています。

令和6年度の主要事業

① 安全でうるおいのある暮らしができるまち


特別展「清瀬駅100年の物語」を実施							
シティプロモーション課（郷土博物館） ☎042-493-8585							
実施期間 R6.6.9～R6.9.1	事業費 372万円						
 <p>清瀬駅100年の物語展示風景</p>	<table border="1"> <tr> <td>配送・搬送費</td> <td>142万円</td> </tr> <tr> <td>印刷製本費</td> <td>151万円</td> </tr> <tr> <td>その他諸費</td> <td>79万円</td> </tr> </table>	配送・搬送費	142万円	印刷製本費	151万円	その他諸費	79万円
	配送・搬送費	142万円					
	印刷製本費	151万円					
	その他諸費	79万円					
財源内訳							
一般財源	372万円						
決算説明書掲載ページ							
【歳出】131ページ							
<p>令和6年に開業100周年のむかえた清瀬駅周辺の変化の様子などを中心に駅と共に発展してきたまちである清瀬市の歴史を様々な資料を使って紹介する展示を開催しました。</p>							

消防ポンプ自動車を購入			
防災防犯課 ☎042-497-1847			
事業完了日 R7.3.31	事業費 2,607万円		
 <p>消防ポンプ自動車</p>	<table border="1"> <tr> <td>車両購入費</td> <td>2,607万円</td> </tr> </table>	車両購入費	2,607万円
	車両購入費	2,607万円	
	財源内訳		
	市債 一般財源	2,600万円 7万円	
決算説明書掲載ページ			
【歳入】75ページ 【歳出】263ページ			
<p>消防ポンプ自動車は、発災時に消防団員が安全、迅速に消火・救出活動を行う上で欠かせないものであるため、ポンプの法定耐用年数である15年が経過した第5分団の消防ポンプ車の更新を行いました。</p>			

災害時の女性、要配慮者等の支援のあり方委員会の実施			
防災防犯課 ☎042-497-1847			
事業完了日 R7.3.25	事業費 16万円		
 <p>委員長から澁谷市長へ提言が渡される様子</p>	<table border="1"> <tr> <td>謝礼</td> <td>16万円</td> </tr> </table>	謝礼	16万円
	謝礼	16万円	
	財源内訳		
	一般財源	16万円	
決算説明書掲載ページ			
【歳出】261ページ			
<p>災害時における避難所において、女性や要配慮者等が安心・安全に過ごせる避難所運営の事前準備体制を整備するため、災害時の女性、要配慮者等の支援のあり方委員会を設置・開催しました。</p>			


② 健幸でともに支え合うまち

ウォーキングマップ・デジタルウォーキングラリー事業を実施		
健康推進課（成人保健係） ☎042-497-2076		
実施期間 ①R6.7.1～R6.7.31	事業費 303万円	
 <p>事業イラスト</p>	運営管理費 303万円	
	財源内訳	
	都費 137万円 一般財源 166万円	
	決算説明書掲載ページ 【歳入】57ページ 【歳出】209ページ	
市民の身体活動量増加と健康増進を目的に、「きよせWalking Map」掲載5コースでデジタルスタンプラリーを開催しました。ニンニンポイントをインセンティブとし、生活圏内の資源を楽しみながら探すことでウォーキングを習慣化し、生活習慣病の予防・改善を図りました。		

男子HPVワクチン任意予防接種費用の助成を実施		
子育て支援課（母子保健係） ☎042-497-2077		
実施期間 通年	事業費 381万円	
 <p>男子HPVワクチン任意予防接種費用の助成</p>	予防接種委託費 381万円	
	財源内訳	
	都費 204万円 一般財源 177万円	
	決算説明書掲載ページ 【歳入】57ページ 【歳出】215ページ	
令和6年度より小学校6年生から高校1年生相当の学年までの男子を対象として、HPVワクチンの予防接種にかかる接種費用の助成を開始しました。		

③ 子どもたちを健やかに育むまち

南部地域児童館等複合施設整備工事を実施		
未来創造課 ☎042-497-1802		
事業完了日 R8.10.15（予定）	事業費 4億7,699万円	
 <p>南部地域児童館等複合施設</p>	整備工事費 4億7,699万円	
	財源内訳	
	国費 1,500万円 都費 4,298万円 市債 4億1,700万円 一般財源 201万円	
	決算説明書掲載ページ 【歳入】47、53、75ページ 【歳出】105ページ	
「こころ踊る出会いがありのびのび・すくすく・いきいき過ごす未来創造拠点」の事業コンセプトを踏まえて令和5年度に策定した実施設計をもとに、南部地域児童館等複合施設の整備工事を実施しました。南部地域に新たな児童館、図書館、市民センターの機能が入った複合施設と中央公園の整備により、「子どもと幸せを育む“舞台”」の実現を目指します。		

児童手当等事業を拡充									
子育て支援課（子育て支援係） ☎042-497-2088									
実施期間 R6.10.1～通年	事業費 11億3,636万円								
 <p>児童手当等事業を拡充</p>	<table border="1"> <tr> <td>扶助費（児童手当等）</td> <td>11億1,982万円</td> </tr> <tr> <td>借上料</td> <td>1,202万円</td> </tr> <tr> <td>その他諸費</td> <td>452万円</td> </tr> </table>	扶助費（児童手当等）	11億1,982万円	借上料	1,202万円	その他諸費	452万円		
	扶助費（児童手当等）	11億1,982万円							
	借上料	1,202万円							
	その他諸費	452万円							
	財源内訳								
<table border="1"> <tr> <td>国費</td> <td>8億3,582万円</td> </tr> <tr> <td>都費</td> <td>1億5,430万円</td> </tr> <tr> <td>諸収入</td> <td>500万円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>1億4,124万円</td> </tr> </table>	国費	8億3,582万円	都費	1億5,430万円	諸収入	500万円	一般財源	1億4,124万円	
国費	8億3,582万円								
都費	1億5,430万円								
諸収入	500万円								
一般財源	1億4,124万円								
決算説明書掲載ページ									
【歳入】43、47、51、73ページ 【歳出】183ページ									
<p>児童の生活安定を目的に、①所得制限の撤廃、②支給対象児童の年齢を「高校生年代」に延長、③第三子以降の手当額（多子加算）を月3万円に増額、④第三子以降の算定に含める対象の年齢を「2歳到達後の最初の年度末まで」に延長、⑤支給回数を年6回に変更となり制度が拡充されました。</p>									


ファーストバースデーサポート事業を実施				
子育て支援課（母子保健係） ☎042-497-2077				
実施期間 通年	事業費 2,608万円			
 <p>事業イラスト</p>	<table border="1"> <tr> <td>運営管理費</td> <td>2,608万円</td> </tr> </table>	運営管理費	2,608万円	
	運営管理費	2,608万円		
	財源内訳			
	<table border="1"> <tr> <td>都費</td> <td>2,608万円</td> </tr> </table>	都費	2,608万円	
	都費	2,608万円		
決算説明書掲載ページ				
【歳入】57ページ 【歳出】211ページ				
<p>1歳を迎えるお子さんを対象に子育て応援としてファーストバースデーサポートを令和4年度より実施しています。令和6年度より令和5年4月1日以降に出生したお子さんがいる家庭には第1子：6万円分、第2子：7万円分、第3子以降：8万円分のギフトを渡しました。</p>				

学校給食費の無償化を実施						
教育企画課 ☎042-497-2539						
実施期間 R6.10.1～R7.3.31	事業費 1億3,133万円					
 <p>小学校で提供された給食の写真</p>	<table border="1"> <tr> <td>給食費</td> <td>1億3,133万円</td> </tr> </table>	給食費	1億3,133万円			
	給食費	1億3,133万円				
	財源内訳					
	<table border="1"> <tr> <td>都費</td> <td>8,044万円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>5,089万円</td> </tr> </table>	都費	8,044万円	一般財源	5,089万円	
	都費	8,044万円				
一般財源	5,089万円					
決算説明書掲載ページ						
【歳入】53、59ページ 【歳出】289、299ページ						
<p>保護者の給食費負担を軽減するため、10月から学校給食費の無償化を実施いたしました。また、アレルギー等の事由により、給食が食べられず、お弁当を持参している児童・生徒には、給食費と同額の補助金を交付いたしました。</p>						

④ 豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち

第14回清瀬ひまわりフェスティバルを開催		
産業振興課（農政係） ☎042-497-2052		
実施期間 R6.8.6～R6.8.13	事業費 2,124万円	
 <p>広大な農地に咲き誇るひまわり</p>	ひまわりフェスティバル事業補助金 2,124万円	
	財源内訳	
	都費 624万円	
	まちづくり応援基金 46万円	
	一般財源 1,454万円	
決算説明書掲載ページ		
【歳入】 53、57ページ 【歳出】 235ページ		
<p>約24,000㎡の広大な農地で約10万本のひまわりを鑑賞できる清瀬市の夏の風物詩です。前年度に引き続きオーバーツーリズム対策として事前予約制の導入や熱中症対策を強化しました。近隣の農地でとれた新鮮な地場野菜の販売やひまわりの摘み取り体験など、都市農業のPRをおこないました。</p>		


清瀬市観光協会へ補助金を交付		
産業振興課（商工係） ☎042-497-3187		
実施期間 通年	事業費 1,090万円	
 <p>観光協会設立総会の様子</p>	清瀬市観光協会補助金 1,090万円	
	財源内訳	
	一般財源	1,090万円
	決算説明書掲載ページ	
【歳出】 239ページ		
<p>清瀬市や多様な主体と連携して観光施策を推進し、産業振興、地域活性化及びシビックプライドの醸成を図ることを目的に設立した清瀬市観光協会へ補助金を交付した。 清瀬市観光協会では、特産品の開発や販路拡大を実施するとともに、各種イベントにおいて観光案内や物品販売を実施した。</p>		

東村山都市計画道路事業3・4・16号中清戸線（I期）、東村山都市計画道路事業3・4・17号下清戸線及び東村山都市計画道路事業3・4・26号久米川駅清瀬線の用地取得を実施		
都市計画課 ☎042-497-2083		
実施期間：通年	事業費 4億2,945万円	
 <p>東3・4・17号下清戸線の様子</p>	土地購入費 4億2,945万円	
	財源内訳	
	国費 8,455万円	
	都費 1億2,152万円	
	市債 2億1,300万円	
	一般財源 1,038万円	
決算説明書掲載ページ		
【歳入】 47、53、59、75ページ 【歳出】 251、253ページ		
<p>上記の都市計画道路事業用地について、清瀬市土地開発公社が取得した土地のうち、15件、1070.86㎡の買戻しを実施しました。</p>		

清瀬花の里公園整備及びプレパーク事業を実施									
水と緑と公園課 ☎042-497-2098									
事業完了日 R7.3.31	事業費 1億9,217万円								
 <p>清瀬花の里公園</p>	<table border="1"> <tr> <td>運営管理費費</td> <td>250万円</td> </tr> <tr> <td>工事請負費</td> <td>1億8,967万円</td> </tr> </table>	運営管理費費	250万円	工事請負費	1億8,967万円				
	運営管理費費	250万円							
	工事請負費	1億8,967万円							
	財源内訳								
	<table border="1"> <tr> <td>国費</td> <td>8,500万円</td> </tr> <tr> <td>都費</td> <td>1,850万円</td> </tr> <tr> <td>寄附金・繰入金</td> <td>8,150万円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>717万円</td> </tr> </table>	国費	8,500万円	都費	1,850万円	寄附金・繰入金	8,150万円	一般財源	717万円
国費	8,500万円								
都費	1,850万円								
寄附金・繰入金	8,150万円								
一般財源	717万円								
決算説明書掲載ページ									
	【歳入】47、53、65、67ページ 【歳出】257ページ								
<p>約1haの公園用地を、清瀬市が「緑と水の拠点」として位置づける「柳瀬川回廊」に組み込み公園を整備しました。プレパーク事業として市民の方が公園に関わり、育てていく公園を目指し、開園後の公園をイメージできるようにガーデンの見学会、植栽デザイン学習会を実施しました。また、市内の公園では初となる公園協議会を実施し、公園の管理運営についても議論しました。</p>									

⑤ 都市格が高いまち

シティプロモーションマガジンの発行					
シティプロモーション課 ☎042-497-1808					
実施期間 通年	事業費 651万円				
 <p>シティプロモーションマガジン</p>	<table border="1"> <tr> <td>作成費</td> <td>474万円</td> </tr> <tr> <td>全戸配布費</td> <td>177万円</td> </tr> </table>	作成費	474万円	全戸配布費	177万円
	作成費	474万円			
	全戸配布費	177万円			
	財源内訳				
	<table border="1"> <tr> <td>一般財源</td> <td>651万円</td> </tr> </table>	一般財源	651万円		
一般財源	651万円				
決算説明書掲載ページ					
	【歳出】97ページ				
<p>市政への理解促進及びシティプロモーション推進による定住促進を目的に、新たな刊行物としてシティプロモーションマガジン「more! KIYOSE」を4回（9月・11月・1月・3月）発行し、全戸配布を実施しました。</p>					

清瀬駅開業100周年を記念した各種イベントの開催							
シティプロモーション課 ☎042-497-1808							
実施期間 R6.4.1~R6.9.27	事業費 2,477万円						
 <p>清瀬駅開業100周年記念式典の様子</p>	<table border="1"> <tr> <td>記念グッズ等製作・製造委託費</td> <td>1,419万円</td> </tr> <tr> <td>負担金</td> <td>965万円</td> </tr> <tr> <td>その他諸費</td> <td>93万円</td> </tr> </table>	記念グッズ等製作・製造委託費	1,419万円	負担金	965万円	その他諸費	93万円
	記念グッズ等製作・製造委託費	1,419万円					
	負担金	965万円					
	その他諸費	93万円					
	財源内訳						
<table border="1"> <tr> <td>都費</td> <td>1,435万円</td> </tr> <tr> <td>諸収入</td> <td>11万円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>1,031万円</td> </tr> </table>	都費	1,435万円	諸収入	11万円	一般財源	1,031万円	
都費	1,435万円						
諸収入	11万円						
一般財源	1,031万円						
決算説明書掲載ページ							
	【歳入】53ページ 【歳出】107ページ						
<p>清瀬駅開業100周年を記念し、清瀬市の知名度向上やにぎわいの創出を目的に、記念式典の開催、記念グッズの製作、清瀬駅発車メロディの変更などを実施しました。</p>							

決算の特徴

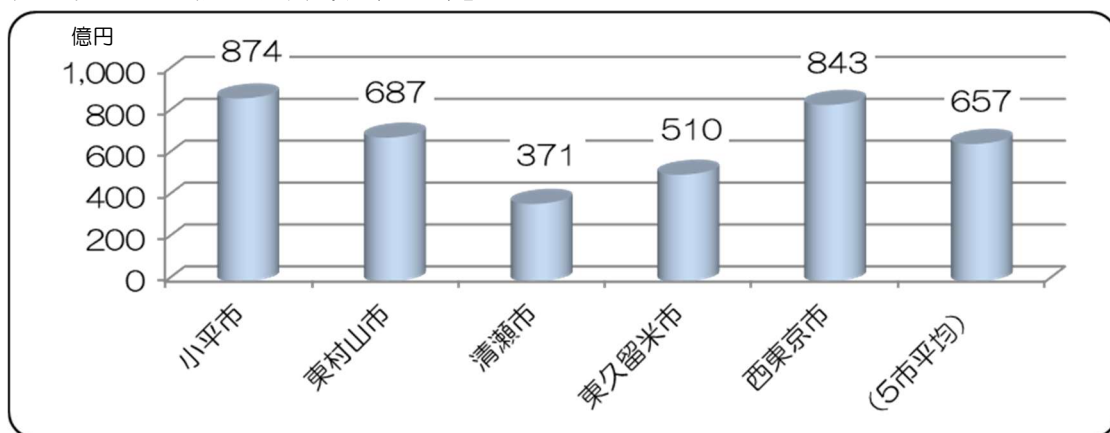


清瀬市の決算額は他の市と比べてどれくらいの規模なのでしょうか？



1～5 ページで見たとおり、清瀬市の令和6年度歳出決算額は370億9,282万円でした。この決算額は、市民の皆さんにとっては大きすぎる金額のため、イメージしづらいかもかもしれません。そこで、370億9,282万円という決算額が、市としてどれほどの規模なのか、近隣5市と比べてみましょう。

【近隣5市との比較：決算額（歳出）】

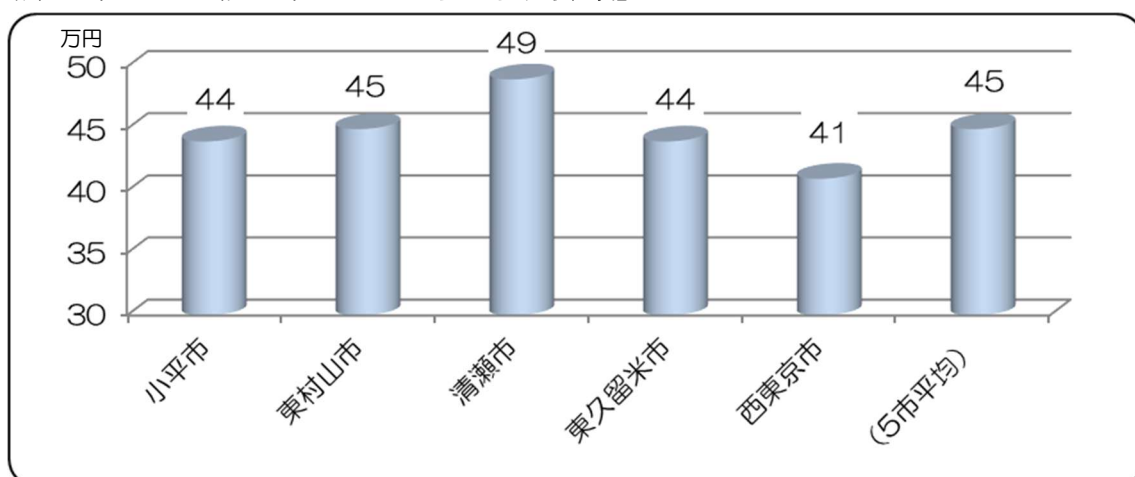


決算額（歳出）を比較すると、清瀬市の財政規模は近隣5市で最も低い水準です。

これは、他の市に比べて人口が少ないことと、面積が小さいためです。

では、清瀬市で行っている行政サービスの水準は、近隣市と比べて低いのでしょうか？

【近隣5市との比較：市民1人あたり決算額】



決算額（歳出）をそれぞれの人口（令和6年1月1日現在）で割ると、市民1人あたりに平均してどれだけ行政サービスを行ったかが分かります。

令和6年度については、清瀬市は市民1人あたり49万円の行政サービスを提供しており、近隣市のなかで最も高い水準です。

積立金現在高の状況

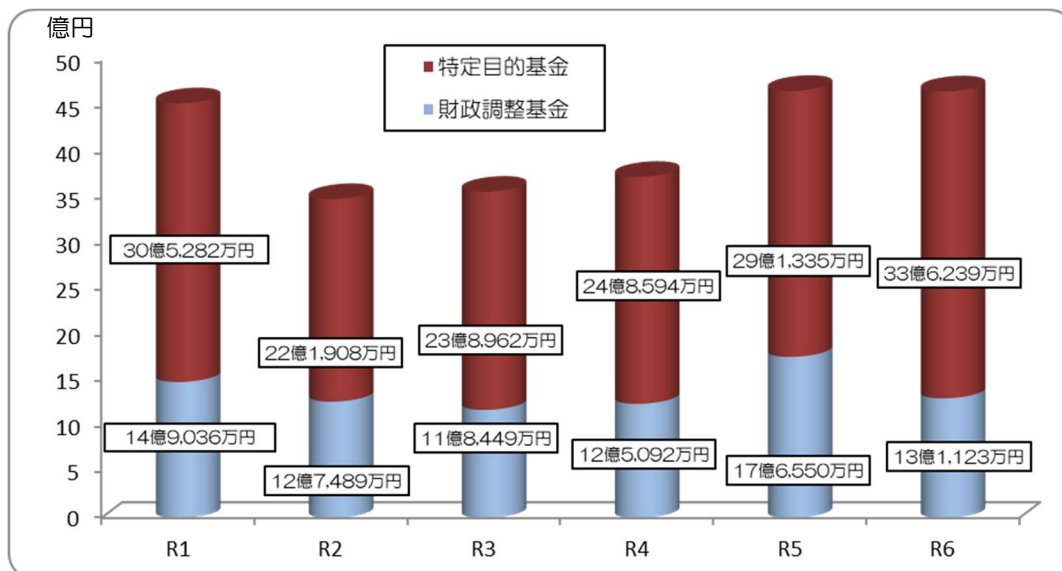


毎年たくさんのお金を使って道路や学校の整備、様々な行政サービスを提供していますが、清瀬市には貯金はあるのでしょうか？



市役所では、一般家庭における貯金にあたる「基金」を持っています。基金には、決算が黒字だったときに残ったお金を積み立てておき、お金が足りなくなったときに取り崩して使うための「**財政調整基金**」と、今後行う事業に使うために計画的に積み立てておく「**特定目的基金**」があります。特定目的基金には、庁舎や公共施設の整備に使うための「**公共施設整備基金**」や市内の雑木林や公園などの整備に使うための「**緑地保全基金**」、まちづくり応援寄附として頂いたお金を一時的に積み立てておく「**まちづくり応援基金**」などがあります。

【基金残高の推移】



※特定目的基金は減債基金を含んだ数値です。

上のグラフのうち、各年度の下側が財政調整基金です。残高の推移をみると、行財政改革の推進により捻出された財源などを積み立てたことにより、令和元年度以降は11億円から17億円台を維持していますが、令和6年度は取崩が多かったことから、残高を減らす結果となっています。

また、特定目的基金については、花のある公園整備工事や道路用地購入事業などの財源とするため公共施設整備基金から1億6,900万円の取崩しを行いました。また、南部地域児童館等複合施設整備事業などに備えるため公共施設整備基金に5億4,984万円を積み立てたことなどから、33億6,239万円となりました。

今後は、前述の通り公共施設の整備のほか、さらには年々膨らむ社会保障関係経費などの経常経費（市が任意に削減できない義務的経費（人件費・扶助費・公債費）などの毎年決まって支出されるお金）の増加が見込まれています。このようなことから、財政調整基金及び特定目的基金への積み立てを計画的に行う必要があります。

財政指標



清瀬市の財政状況は良いのでしょうか？それとも悪いのでしょうか？



清瀬市の財政状況を知るためには、様々な財政指標をみることで把握することが出来ます。そのなかでも財政状況を分析するのによく使われる「**経常収支比率**」と「**財政力指数**」から清瀬市の財政状況を見て行きましょう。

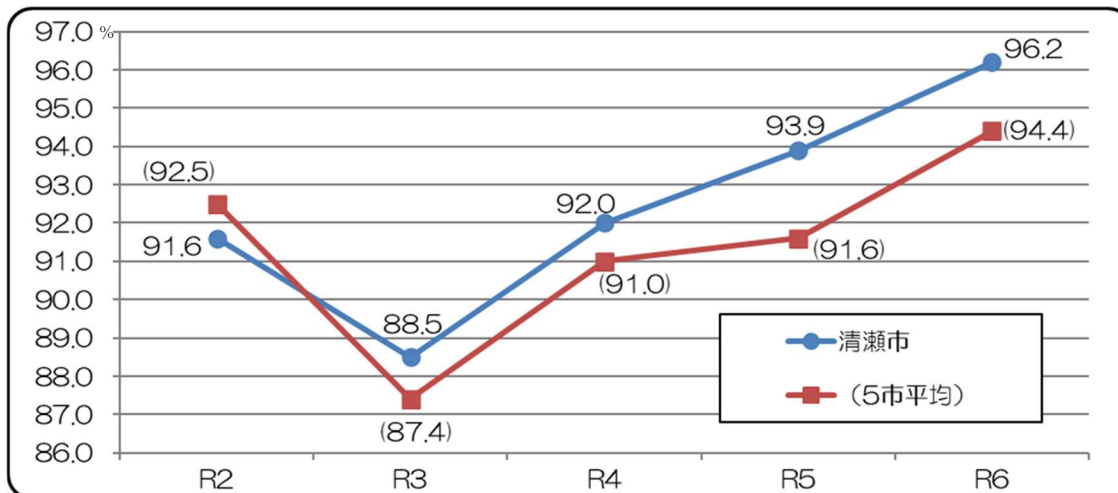
① 経常収支比率

経常収支比率は、市税など毎年決まって収入されるお金が扶助費や公債費など毎年必ず支払わなければならない経費にどれくらい使われているかを示しています。つまり、「自由に使えるお金が、どれだけ使い道を縛られているか」を意味します。一般的には 70～80%が適正水準とされています。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費に使った一般財源}^{\ast}}{\text{毎年収入が見込める一般財源}} \times 100$$

※ { 一般財源：市税や地方交付税など、市の判断でいかなる経費にも使うことができるお金
 特定財源：国・都支出金や建設地方債など、特定の経費に使うことが義務付けられているお金

【近隣5市との比較：経常収支比率の推移】



清瀬市の経常収支比率は、令和6年度決算で96.2%と前年度よりも2.3ポイント悪化し、近隣5市平均と比較して高い水準となっています。

令和6年度の96.2%という経常収支比率を家計に例えると、30万円の給料のうち、96.2%である28万8,600円を食費や家賃などの生活費に使っていることになり、自由に使えるのは残りの1万1,400円しかない、生活に余裕のない状態です。

しかしながら、これは限りある収入の中で高い水準の生活を維持している結果でもあります。生活費を削減すれば家計は表面上改善するものの、生活水準は低下しかねません。自治体においても、経常経費の削減は行政サービスの低下につながる可能性がありますので、慎重な判断が求められています。

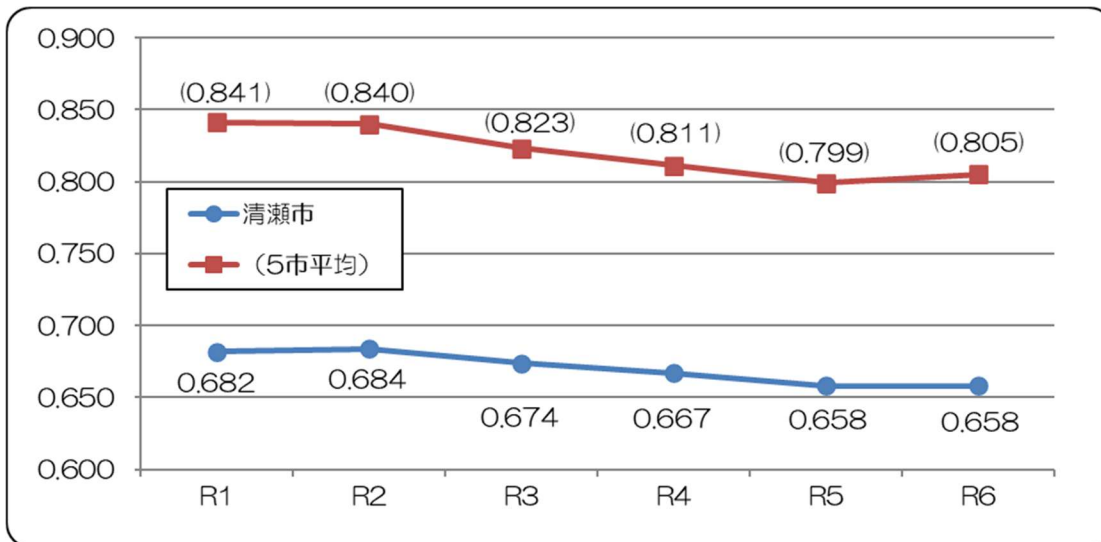
② 財政力指数

清瀬市が行っている行政サービスにかかるお金の一部は、国や都からの補助金で賄っていますが、清瀬市も市税等の一般財源で負担する必要があります。この清瀬市が負担すべき一般財源のうち、どれくらい独自で調達できているのかを示すのが財政力指数です。

$$\text{財政力指数} = \frac{\text{基準財政収入額（市が独自で調達できる一般財源）}}{\text{基準財政需要額（市が負担すべき一般財源）}}$$

例えば、市が独自で調達できる一般財源が70億円で、市が負担すべき一般財源が100億円の場合、財政力指数は0.7となります。財政力指数が1を割っているため、「財源が不足している団体」とされ、国から地方交付税（普通交付税）が交付されます。財政力指数が1を超えると、「財源が豊かな団体」とされ、普通交付税を受け取ることはできません。

【近隣5市との比較：財政力指数の推移】



※各年度の数値は、その年度を含む3年間の平均値です。

清瀬市の財政力指数は0.6程度で、国からの普通交付税により一般財源の不足分を補っています。特に近年は、高齢化などによる社会保障関係経費の増加が影響し、普通交付税に頼らざるを得ない傾向が強まっています。

普通交付税額の推移

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
普通交付税額	38億2,773万円	45億8,479万円	46億1,323万円	46億4,089万円	51億2,647万円

ここまで経常収支比率、財政力指数をみてきましたが、清瀬市の指標はいずれも改善が必要な数値となっています。これらからわかるとおり、決して清瀬市の財政状況は良いとは言えません。今後も、指標の改善を目指して行財政改革の推進など、より一層の努力をしていかなければなりません。

借金と将来負担



学校や道路などの整備にはたくさんのお金がかかりそうですが、市税や国、都からの補助金だけで足りるのでしょうか？

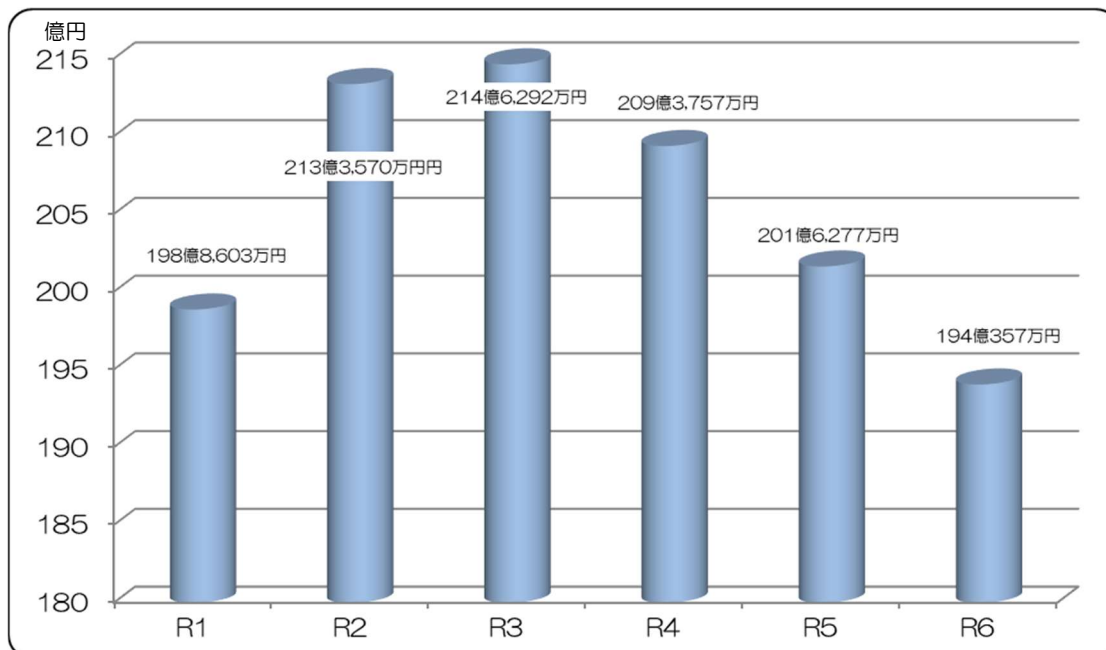


学校や道路などの整備には、たくさんのお金が必要となり、その年の税収だけでこれらの事業を行ってしまうと、他の事業を行うためのお金が不足してしまいます。そのため、借金をしてその年の負担を減らしています。

また、学校や道路は長期間にわたって利用されます。そのため、借金をして整備費を払い、翌年度以降の借金返済に市税を充てることで、将来の世代にも費用の一部を負担していただいています。「借金」には何かと悪いイメージが付きまといますが、市の借金である「地方債」には、年度間・世代間の負担調整という役目もあります。

清瀬市では、令和6年度に一般会計で12億1,900万円の借り入れをして、20億4,631万円（うち元金19億7,820万円）の返済をしたことで、借金の残高は194億357万円になりました。借入額よりも元金の返済額が上回ったため、令和6年度の地方債残高は減少しました。

【一般会計の地方債残高の推移】



新庁舎建設事業の財源とするため、H30年度からR3年度にかけて22億4,600万円の市債を発行したことにより地方債残高は増加傾向にありましたが、市債の発行基準を設けるなど、地方債残高の縮減に努めてきました。

しかし、今後は新校建設事業などに多額のお金が必要となり、その一部を借金によって賄うことが予定されているので、地方債の残高にはこれまで以上に気を配る必要があります。

赤字補てんの地方債

原則的に、市は公共施設や社会資本の整備のためにしか借金をすることができないと地方財政法で定められています。しかしながら、特定の条件付きで、不足した一般財源を補うために借金をしてもよいという特例が設けられています。そのなかでも、金額が大きいのが臨時財政対策債です。

これは国が普通交付税に必要なお金を確保できなくなったことから、普通交付税の一部を交付せず、代わりに市が借金をすることができるというもので、平成13年度から継続して行われていま

臨時財政対策債の借入額の推移

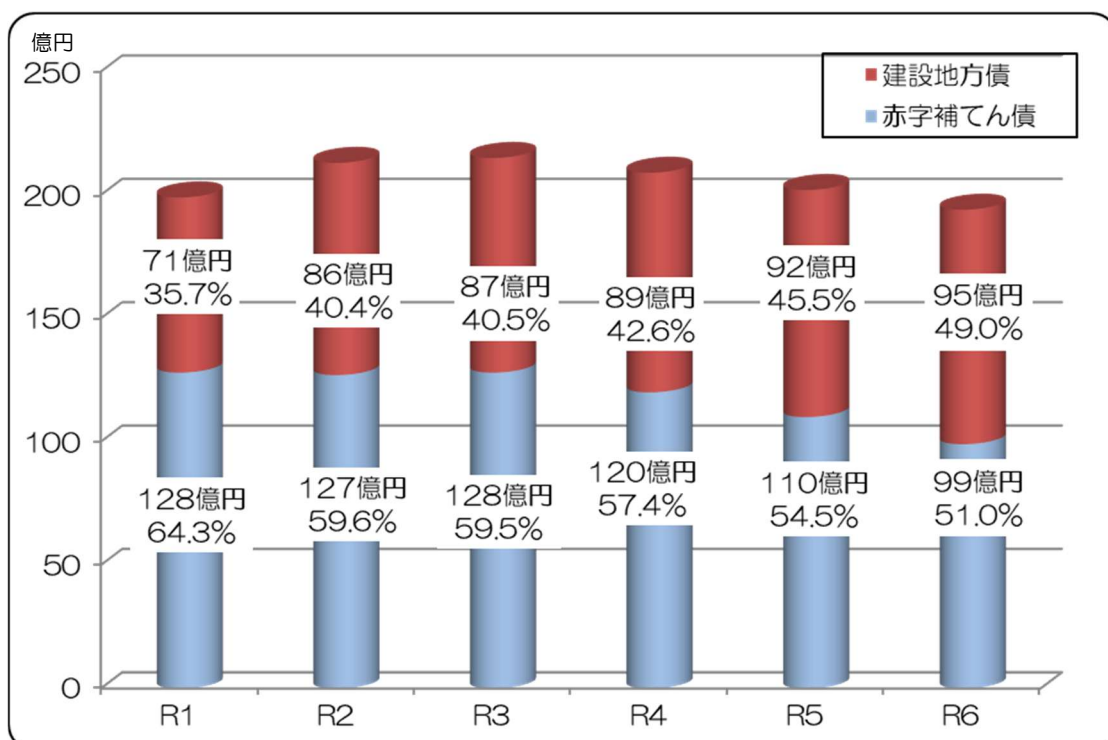
年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
借入額	8億6,100万円	12億1,000万円	3億2,000万円	1億4,700万円	0万円

上の表のとおり、令和5年度まで臨時財政対策債を借りていましたが、令和6年度は普通交付税の原資となる国税収入等が回復傾向であることから借入をしていません。

臨時財政対策債などの赤字補てん債は、社会資本の整備につながらない、その場しのぎの借金です。財政力指数が0.6程度しかない清瀬市では、独自で一般財源を用意することができないため、臨時財政対策債を活用しなければならない状況が続いていました。

【建設地方債と赤字補てん債（臨時財政対策債を含む）の残高】

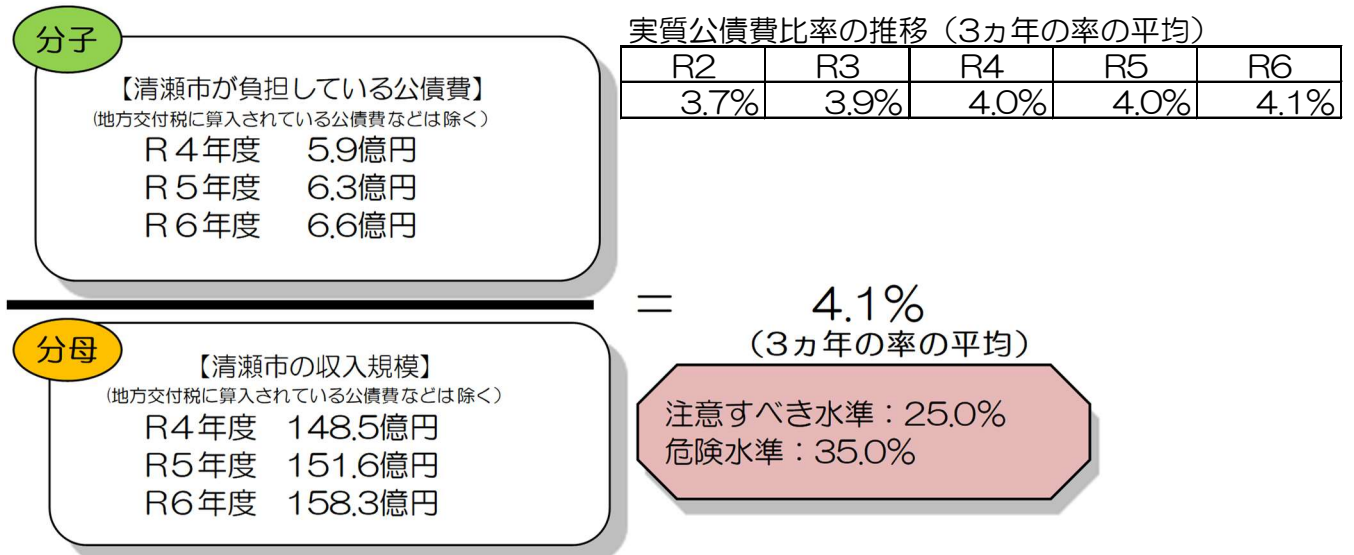
地方債残高の内訳をみると、特例措置であるはずの赤字補てん債の残高が建設地方債を上回っていますが、今後も臨時財政対策債の借入がなくなると、いずれ建設地方債が上回る見込みです。臨時財政対策債については、その返済金の全額が翌年度以降の普通交付税の算定で算入されることになっていますが、国の財源不足を地方の借金に転嫁する方法には問題があると清瀬市では考えています。



借金返済の負担率

市で行う借金は、公共施設や社会資本の整備に不可欠ですが、その返済金が大きくなりすぎると、財政運営は困難になります。そこで、**実質公債費比率**という指標を使い、収入に対する借金返済額の割合をチェックします。

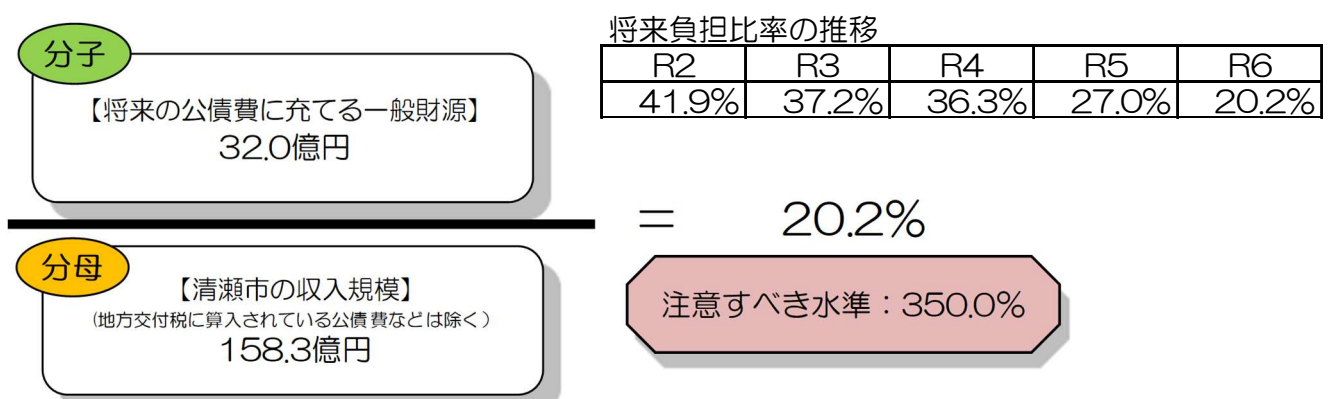
【実質公債費比率の算出方法】



実質公債費比率は、25%を超えると要注意状態と見なされます。この比率は、3か年の平均で求めます。清瀬市は昨年度と比べ+0.1%の4.1%となっており、基準内に収まっています。

また、**将来負担比率**という指標を使い、将来負担すべき借金返済額の標準的な収入に対する割合をチェックします。

【将来負担比率の算出方法】



将来負担比率が350%を超えると要注意状態にあると見なされます。新庁舎建設事業の財源とするため、H30年度からR3年度にかけて22億4,600万円の市債を発行したことにより増加しましたが、清瀬市は20.2%で基準内に収まっています。なお、将来負担比率は、公共施設整備基金の積み立てなど、将来負担の軽減につながる基金の増加などにより、減少となっています。

人件費削減の取組

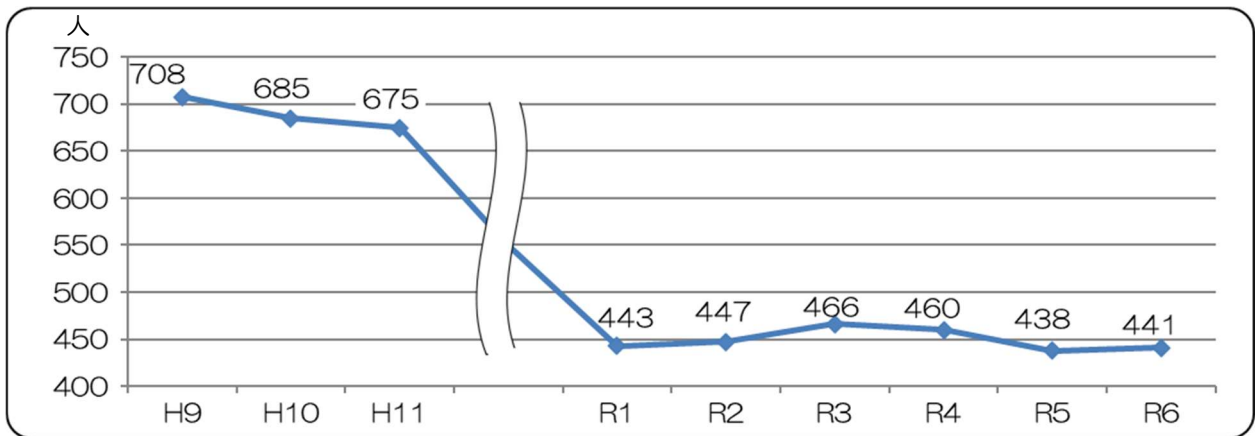


いろいろな財政指標をみてみると清瀬市の財政状況は厳しいようですが、財政状況を改善していくために取り組んでいることはありますか？



バブル崩壊後の厳しい経済状況により、清瀬市は行財政改革に取り組みました。そのひとつが職員数を減らすことであり、人件費の削減を推進してきました。平成9年度には708人の正規職員がいましたが、令和6年度には441人と平成9年度と比較して267人の削減を行いました。

職員数の推移（全会計）

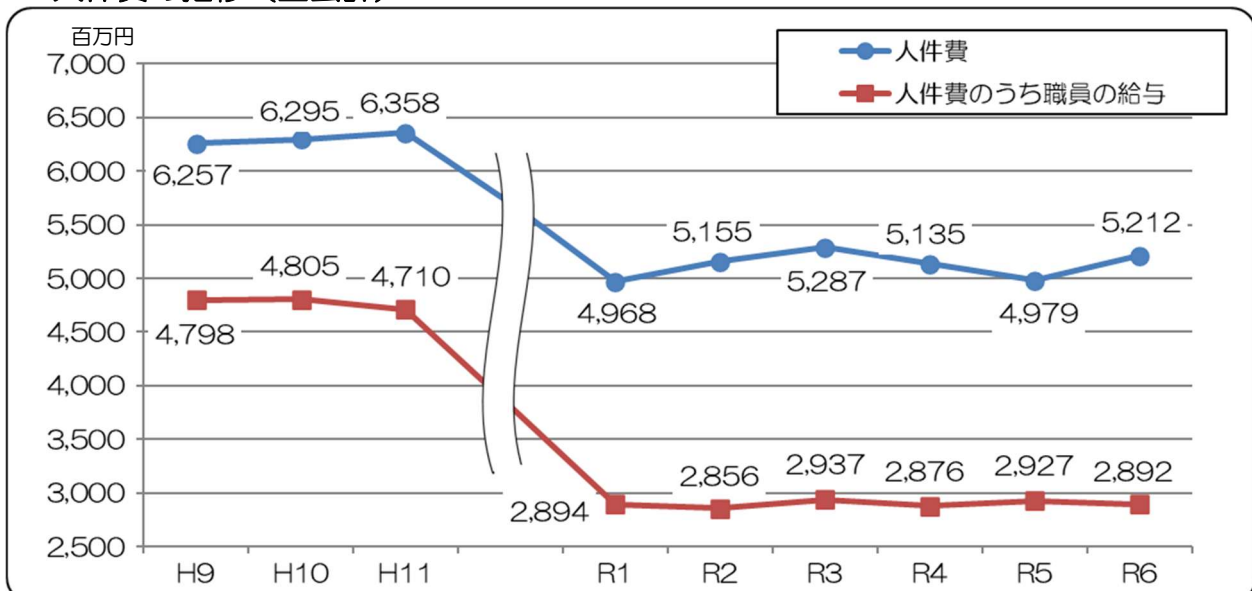


※職員数は各年度4月1日現在です。

※平成27年度からは教育長を除いた数値です。

この取り組みにより職員の給与や、議員の報酬、非常勤職員の報酬などの人件費は一番多かった平成11年度の63億5,800万円に対して、令和6年度は52億1,200万円であり、11億4,600万円削減しています。1年間に支払う職員の給与については、ピークであった平成10年の48億500万円に対して、令和6年度は28億9,200万円であり、19億1,300万円削減しています。

人件費の推移（全会計）



『清瀬市のわかりやすい決算書』
～清瀬市のまちづくり報告書～
令和8年4月発行

清瀬市経営政策部財政課財政係

〒204-8511

東京都清瀬市中里 5-842

TEL 042-497-1810 (直通)

TEL 042-492-5111 (内線 3131～3134)